

第2章 歴史

そうしゅうおおやま

#10 相州大山

作者：内海弁次（うつみ・べんじ 1913-?）

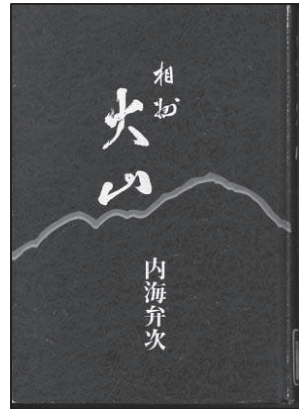
刊行：平成8年（1996）



📖 解題

■ 内容

本書は、大山御師の系譜に連なる山内の住人により書き下ろされた論考である。時代の変遷により様変わりする大山にあって、万代不易の業態を子孫に伝えるために記したとある。大山御師とは、江戸時代、徳川幕府による寺社統制により下山させられた修験者などが、大山山麓に住み着き御師となったのが始まりである。宣教活動として信者の参拝の案内や宿泊の世話をし、庶民に大山信仰を広めた。



[K17.64/44]

布教する側に立ち論じられた本書の内容は、大山に纏わる歴史と、民俗・民話の2種類に大別される。

大山の歴史をたどる時、信仰の諸相が極めて多様である。原始信仰による心霊の山から、仏教支配となり、ついで修験支配となり、江戸時代以降再び清僧の山となった。仏教支配は合わせて千百余年続き、その後再び神道主体に戻る。筆者が大山の起こりと説く原始・古代から、中世、近世、近代と、それぞれの時代に視点をあて、通史として概要を記している。また時代ごとに大山の展開に関わる人物を抜き出し解説している。

民話については、「大山今昔ばなし」と題し、主に大山の内側に立った人々や山麓の営みについて愛着を込めて語られている。これは巻末付録という

第2章 歴史

構成だが、全487頁のうち約3分の1に及び、大山で生きる者がいかに山への繋がりを維持し、職業相伝を祈ったかを理解する一助となる。

■ 作者

作者の内海弁次は大正2年（1913）、大山旧御師で代々旅館・茶店を営む歎喜楼に生まれる。名前の弁は大山を開いた良弁僧正の1字からとっている。弁次の曾祖父は御師内海平太夫千尋で、幕末に帰郷し御師と寺子屋を続けた。当時歎喜楼のあった場所で開業したのが祖父了太郎である。弁次は伊勢原市役所に勤務する傍ら、地元伊勢原の歴史を精力的に研究し、『大山寺縁起絵巻』を大山寺から出版するに当たってこれを取りまとめ、補完した。大山寺不動尊責任役員総代を務める。また大山阿夫利神社能楽社狂言座員として大蔵流山本東次郎師に師事し、大山能再興に尽力した。

参考文献

『相模大山縁起及文書 復刻版』石野瑛著 名著出版 1973（武相叢書 第3編）[K18.64/1A]

『大山寺縁起』大山寺 1984 [K18.64/23] [N5.2/ダ`イ]

『大山史年表』内海弁次著 伊勢原大山寺 1986 [K18.64/26]

内海弁次「住吉の大山」（『伊勢原の歴史 第6号』伊勢原市 1991）
[K21.64/6/4-7]

内海弁次「鎌倉以降の大山」（『伊勢原の歴史 第7号』伊勢原市 1992）
[K21.64/6/7a]